



高輪だより

令和8年度7月号
港区立高輪幼稚園
園長 佐々木勝世

わくわく ぽかぽか
みんなえがおの
たかなわようちえん



園庭の可能性



園内の木々の緑が濃くなり、栽培している夏野菜には実が付き始めました。毎日のように、ダンゴムシやチョウを発見した子どもたちの歓声が園庭中に響き渡り、都会ではなかなか見ることができない美しいタマムシの出現には教職員も驚きました。各保育室ではヤゴを飼育し、羽化したばかりのトンボが羽を乾かす様子を観察しました。本園の園庭は、四季折々の自然やその変化をはっきりと感ずることができる素晴らしい環境です。

昨年度から、この自然環境を生かしたビオトープ（生物が自然な状態で生息する場所）の環境整備と、生き物との関わりを通じた教育活動の充実を目指し、東京都の『すくわくプログラム』（本園ホームページ参照）や港区の『みなエコ（みなと子どもエコアクション）』といった事業に積極的に取り組んでいます。今年度は、もっとたくさんのチョウに来てほしいという子どもと教職員みんなの願いから、園内研究会の講師の助言も受けてチョウを誘引するランタナやメランポジウムの花を新たに園庭に植えました。

子どもたちは日々、園庭にいる様々な生き物との出会いに驚き、不思議さや面白さ、愛おしさなどを感じています。ときには興味本位で身勝手な関わりをしてしまうこともあります。そんなときは先生と子どもたちで話し合い、命の尊さや相手の立場に立って自分たちの振る舞いを考える大事な機会としています。

また、生き物に限らず、園庭にある樹木の葉や実、自分たちで世話をしている栽培物、風や雨といった天候・自然現象などとの出会いや関わりも、子どもたちの発見や思考、想像、表現等を豊かにする大きな可能性をもっています。

例えば「雨」であれば、雨の音に耳を傾けた後に楽器や身近な物で雨音を表現する、傘を差して園庭に出掛けて地面を削りながら川のように流れる雨の跡を発見する、カップに雨水を貯めて雨量を可視化する、普段水道から出る水が元を辿れば雨であることを知り大切に使う…etc.

「教科書」がない幼稚園では、身近な物や出来事の全てが子どもたちの学びを引き出す大切な「教材」となり得ます。目の前の出来事や子どもの姿からどのような学びを引き出すかは先生に委ねられている部分も大きく、文部科学省が教師を『高度専門職』と定義する所以です。これからも、本園の特色である豊かな教材に恵まれた園庭で、子どもたちの様々な学びを引き出し、支えていきます。

園長 佐々木 勝世



羽化したばかりのトンボを間近で見る3歳児。



園庭でチョウを探す4歳児と4歳児が見付けたタマムシ。



飼育物の世話をしたり、虫眼鏡で観察したりする5歳児。



先生と一緒に、園庭で実や虫などを探す2歳児。

高輪幼稚園では、子どもたちの生活の様子や、その中にある「学び」について、積極的に発信しています！

【ホームページ】 <https://takanawa-kg.minato-tky.ed.jp>

【X（エックス）】 <https://x.com/takanawakg>



ホームページ



X エックス